

出張報告

報告日 2026年10月1日

会 派 名	社会クラブ・柏崎のみらい連合
報告者氏名	池野里美
種 別	☐ 調査研究（ ☐ 行政視察） ☒ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	新潟県女性議員の会 総会、研修会参加
日 時	R8/7/31(金) 13:30 ~ R8/7/31(金)16:00
場 所 (会場)	新潟県自治会館
調査項目等	・新潟県女性議員の会総会・研修会への参加
概 要	13:30～開会 ○令和8年度新潟県女性議員の会総会 ① 来賓祝辞 ・新潟県副知事：中垣内隆久様 ・(公財)新潟県女性財団理事長 ② 来賓紹介 新潟県男女平等・協働参画統括監 13:45～ ○議事 ① 令和7年度 事業報告、決算報告、監査報告 ② 令和8年度 事業計画（案）、予算（案） ③ 令和8年度 役員選出 ④ その他…知事要望、視察研修について 14:30～ ○新潟県女性議員の会令和8年度研修会 「教育機会の確保（不登校支援）について」 「県立高校の課題と魅力づくり」「令和9年度～令和12年度・県立高校再編計画一生徒一人一人の夢を叶える特色ある学校づくりの推進」 新潟県教育長、高等学校教育課長、義務教育課長、生徒指導課長



所 感 等	○研修会 「教育機会の確保（不登校支援）について」 ① 学びの多様化学校について ・全国の小・中学校における不登校の児童生徒数は、353,970 人（前年度 346,482 人）と過去最多となり、12 年連続で増加しており、小・中学校共に令和 2 年度より急激に増加。以前は、「不登校特例校」という名称だったものを、不登校という言葉の持つ否定的イメージの解消と不登校と一語でくくるのは制度の実態に合わず多様化している現状から、「学びの多様化学校」と 2023 年 8 月 31 日に文部科学省が名称を変更。令和 7 年度までに設置している学校は、全国で小学校 17 校、中学校 62 校、高校 14 校。新潟県内では、令和 8 年 4 月に、上越市立諏訪中学校、小千谷市立小千谷中学校上ノ山分校の 2 か所が開校。 ・諏訪中学校は、生徒数は 20 人。9:20 登校。年間授業時間 980 時間（※標準は 1,015 時間）1 校時 40 分が基本。特徴は、登校すると「つどいの部屋」という所に集まる。この部屋は、テントやハンモックソファなどが置いてあるリラックスできる空間となっている。特徴として、地域の人との交流による体験的な学び、上越教育大との連携による個別最適な学びなどがある。 ・小千谷中学校上ノ山分校では、始業時間は 9:30。1 校時 45 分。小千谷市民学習センター「楽集館」内に学校を設置。照明にも配慮し、リラックスできる環境・整備とカリキュラム編成をしている。体験中心の「フィールドタイム」、マイペース学習の「マイスタディタイム」、関係性づくりの「ふれあいタイム」を新設。学校という概念にとらわれず、通知表は廃止、宿題はなし。服装は自由。学校の規則は原則なし。カウンセラーが常駐し、いつでも相談に乗ってもらえる。 ② 夜間中学 ・夜間中学では、様々な理由により義務教育を終了できなかった人や、不登校のためにほとんど学校へ行けなかった人、また本国で義務教育を修了していない外国籍の人等が学んでいる。全国で 69 校。国は、全ての都道府県、指定都市に少なくとも 1 校を設置するとの目標から、新潟県では、現在、ニーズ調査を行い、新潟市で令和 9 年 4 月に、新潟市立明鏡高校内に新潟市立新星中学校を開校（専任校長を配置する単独校として設置）。1 学年 1 学級で全校 20～40 人を想定。定員はなし。市町村立でも 1 校を検討中。新発田市では、自主夜間中学を開校予定。 ③ 校内研修センター（SSR） ・学校には行けるが、自分のクラスには入りづらいときや少し気持ちを落ち着かせリラックスしたいときに利用できる、学校内の空き教室を利用した部屋で、不登校対策の重要な柱と考えている。令和 7 年 6 月生徒指導課の調べでは、県内小学校で 61.3%（前年 46%）、中学校で 88.6%（同 86.9%）と増えてきている。SSR から教室復帰できた児童・生徒は、県内令和 6 年度のモデル校 3 校においては、小・中学校合わせて 65%と成果が見られている。動線を工夫し、落ち着いた空間の中で学習や生活できる環境を整備したり、固定の教員を配置したり、動画配信によりクラスの授業の姿を見ることができたりと工夫されている。
--------------	---

④ フリースクール

・一般的に、不登校児童生徒に対し、教育相談、体験活動、学習指導等の活動を行っている民間の施設とされている。設置や運営の形態、指導方針・内容等が多種多様。運営が厳しい状況がある事は認識しており、県としても連携は必要と感じている。どのような支援ができるかは検討中。

◎新潟県として、全ての子どもたちへ学びの機会を確保しようと、様々な取組を行っていることを、県の職員の方から詳しく話を聴けてとても参考になった。県として引き続き、教員の確保や学びの多様化学校、夜間学校、フリースクールとの連携など、個々の課題に応じた学びの場を選択できるように力を入れていただきたいと感じた。

「県立高校の課題と魅力づくり」「令和 9 年度～令和 12 年度・県立高校再編計画―生徒一人一人の夢を叶える特色ある学校づくりの推進―」

・新潟県では、令和 7 年度から 16 年度春までに、3,654 人、中学校を卒業する生徒数減少の見込みがある。これは、1 学級 40 人で 91 学級分に相当する厳しい現状である。そこで、生徒・保護者から選ばれる魅力や特色ある学校づくりをするため、令和 7 年 3 月に「県立高校の将来構想」を制定し、10 年後の県立高校の規模の確保とエリア・学校種ごとの適正配置を進めていくこととしている。

魅力や特色としては、複数の専門科を併せ持つ「産業高校」の設置、一人一人の状況に応じて学べる「セルフデザインハイスクール」の設置、「遠隔教育配信センター」の設置による遠隔授業の推進、学校間連携や学校と地域との連携・協働など、多様な主体との連携を進めるため、コンソーシアムの構築やコーディネーターの配置等を推進していく。

公立学校施設の老朽化、教員の成り手不足などで、私立高校と比べ厳しい状況があるが、教師の配置は全力で努めているとの話であった。

今回、県立高校再編整備計画について聴くことができ、新潟県における現状と課題、今後の方針がよく分かりとても参考になった。人口減少、少子化が進む現代において、子どもや保護者から選ばれる魅力ある学校になるためには、施設も大切だが、魅力的な先生がいることや、学びたい授業があることも大切だと考える。

多様な子どもたち一人一人に合った高校を選択できるように、引き続き、教員の確保や魅力づくりを進めていただくよう期待したい。